

【生薬名】 白芷 *ANGELICAE DAHURICAE RADIX*

【起源植物】 ヨロイグサ *Angelica dahurica*



【科名】 セリ科 *Umbelliferae*

【別名】 白芷一名芳香(神農本草経)、鎧草

【薬用部分】 根

【主成分】 フロクマリン誘導体

【薬性】 気味は辛温、帰経は肺胃に属す

【効能】 ●祛風解表・止痛・消腫排膿・燥湿止帯

●汗を発し、湿を除き、痛みを止める

●感冒頭痛に使用する、特に前額部の痛みに適し、産前産後の感冒頭痛にも良い

●白芷の鎮痛作用は頭痛の他にも、止痛にも利用できる

●1日3～9g

●民間薬として風邪、頭痛、鼻づまり、眼病、止痛には1日5～10gを水400mlで半量に煎じ分3服用する

●鎮静・鎮痛薬として神経痛、リウマチ、関節炎に用いる

【出典】 ●療結毒頭痛、頭顔生磊塊痛。(一本堂薬選)

●治女人漏下赤白。血閉陰腫。寒熱。風頭侵目涙出。長肌膚潤澤。可作面脂。(神農本草経中品)

●白芷 辛温、陽明頭痛、風熱癩癢、排膿に通して用う。(薬性歌)

【備考】 ●白芷の薬性の辛は能く風を散じ、温は湿を除き、その芳香は竅を通じ開くので、風を療し痛みを止める薬物である。又、排膿、生肌の作用があり外科領域でも用いられる。故に頭眼歯などの諸痛を治す。風寒の固まったものによい。

【処方例】 ●五積散・荊芥連翹湯・清上防風湯・川芎茶調散・疎経活血湯